

Well-Being指標活用ファシリテーター紹介・派遣事業の概要

【Well-Being指標活用ファシリテーター紹介・派遣事業とは】

- デジタル庁では、地域幸福度（Well-Being）指標を活用した自治体職員向け・住民等向けワークショップを実施する自治体を支援するため、「Well-Being指標活用ファシリテーター」を養成し、自治体に派遣する事業（Well-Being指標活用ファシリテーター紹介・派遣事業）を、令和6年10月に開始しました。
- 本事業では、地域幸福度（Well-Being）指標を活用した研修・ワークショップを主催する自治体からの要請に応じて、「Well-Being指標活用ファシリテーター」を講師・ファシリテーターとして紹介・派遣します（有料）。
- なお、令和6年度中に実施するワークショップは、標準ワークショップ（政策デザイン編）のみとなります。

項目	内容
申請者	● ワorkshopを主催する自治体（もしくは自治体が推薦する団体等）
申請対象となる標準ワークショップ	● デジタル庁が指定する以下の標準ワークショップ ※次年度以降、メニューの拡大を検討しております
講師・ファシリテーター	● 養成講座を修了した「Well-Being指標活用ファシリテーター」から選定 ※ファシリテーターとのマッチングが成立しない場合は、実施時期の変更等をお願いする場合があります
研修コンテンツ	● 一般社団法人スマートシティ・インスティテュート（SCI-Japan）が提供 ※主催自治体に応じて、一部資料のカスタマイズを行います
ワークショップ所要時間	● 午前：講義・演習（2時間）、午後：グループワーク・発表（3時間） ※原則、1日（終日）のリアル研修となります
実施費用	● 以下の費用を主催者にご負担いただきます ①講師料（1名につき）：4万円（消費税等別途） 出張交通費・宿泊費（実費） ②ワークショップ開催支援費：1万円（消費税等別途）
実施報告	● 実施後に、主催者・講師よりそれぞれ実施報告書をご提出いただきます

【令和6年度用「標準ワークショップ（政策デザイン編）」の概要】

項目	内容
参加対象者	①自治体職員 ②地域の関係者（地元事業者・商工会・NPO・大学等） ③地域の住民・学生 なお、②③の実施は、①を実施済であること等を条件とします
定員	● 原則、30名程度 ● グループワークは、1グループ4～5名を推奨
実施目的	● ウェルビーイングの定義、重要性等について理解を深める ● 地域幸福度指標の構成・概要を理解し、指標サイトの使い方を習得する ● 地域幸福度指標をもとにして、対象自治体の現状について理解を深める ● 地域幸福度指標を活用した政策デザイン手法を体験する
プログラム（標準時間）	● 午前（2時間） ウェルビーイングに関する講義、地域幸福度指標ダッシュボードの操作演習 ● 午後（3時間） 地域幸福度指標を活用した政策デザインに関するグループワーク チーム発表・講評

Well-Being指標活用ファシリテーター紹介・派遣事業実施フロー

- Well-Being指標活用ファシリテーターの派遣申請から、ワークショップの実施・実施報告・費用の支払までの流れは以下の通りとなります。

